

平成27年度事業報告書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

特定非営利活動法人 飯綱高原よっこらしょ

平成27年度は(1)飯綱高原地域内にある遊休農地の再生・活用事業(2)地産地消・食育推進事業 (3)自治組織や企業などとの連携による飯綱山麓の地域振興事業 (4)地域福祉の推進に係る高齢者等いきがい生活支援事業 (5)飯綱高原ビジターセンター運営事業を実施した。

特に遊休農地再生活用事業では、前年度から着手した「ヤギプロジェクト」を本格的に展開し、ヤギのレンタルによる他地域への普及啓発を進めた。平成28年6月5日に長野県で開催された全国植樹祭に向けて、県民参加の機運を高めるための活動に取り組んだ。花豆のブランド化を図るためスイーツ・煮豆の加工品開発を行った。

(1) 遊休農地再生・活用事業

① 遊休農地での農作物栽培

遊休農地解消を目的に、よっこらしょ農場等において、飯綱高原にふさわしい景観の形成するためのソバなど景観作物の栽培や、イベントなどに用いる夏野菜(ジャガイモ、トマトなど)、冬野菜(大根、野沢菜など)の栽培、付加価値の高い「千捻花豆」の栽培に取り組んだ。

また、芋井広瀬地区において中山間地直払協定に参画し、遊休田に小麦(シラネ、伊賀筑後オレゴン)を播種した。

② 食農体験イベントーいづな農楽舎の開催

農業体験希望者を地域内外から募集し、日頃は経験できない農作業体験を提供し「食べ物」をつくる楽しみ、喜びを共有してもらうため、年3回のイベントを実施した。イベントを通じて人々の交流・ふれあいの場を提供した。体験メニューの研究、実践の結果、参加者のイベントに対する満足度を高かめることができ、リピーターの確保につながった

平成27年5月10日(日)

ジャガイモ・花豆の植え付けと山菜ランチ 60人

平成27年7月26日(日)

ソバの種まき・ジャガイモの収穫と農場バーベキュー 55人

平成27年11月8日(日)

大根の収穫とそば打ち講座 55人

③ 飯綱山麓・山羊と子どもたちがリーダーの遊休農地等ストップ事業

(長野市 長野市中山間地域農業活性化事業)

荒廃農地の拡大に歯止めをかけるとともに、観光地として魅力を向上させるため、山羊を飼育し、農地の除草事業に取り組んだ。他地域へのヤギレンタルやふれあい体験を通じて、今まで遊休農地の問題に関わりの薄かった層への寄付・ボランティア活動の拡大が図られた。

- ・ 堆肥ヤード、倉庫の設置

地域の間伐材を利用して、堆肥ヤード、仮設倉庫(木製壁)を設置した。

- ・ ヤギによる農場内の除草デモンストレーション
よっこらしょ農場、芋井広瀬地区の遊休農地で放牧による除草を行い、その効果を実証し、相当の成果をあげた。レンタル事業のプレゼンのためデータを記録し、行政機関や農家などへの広報資料を作成した。
- ・ 除草、ふれあいのためのヤギレンタル
若穂地区、鬼無里地区（太陽光発電所）、飯綱グリーンヒルズ小学校へのレンタルを行った。
- ・ ふれあい体験の実施
よっこらしょ農場内、大座法師池芝生広場、芋井地区において、他事業と連携して、ヤギとのふれあい体験を行い、遊休農地問題への啓発と寄付・ボランティア活動の拡大を図った。なお、長野市街地では規制があり、ふれあい事業の実施について課題を残した。

ボランティア・寄付者数 約 36000 人（延べ）

うち クリック募金者数 約 35000 人

(2) 地産地消システム構築・食育推進事業

① 「ながのいのち」ブランド推進協議会への参画

協議会構成員として、市農業公社が主宰する「ながのいのち」ブランドの推進のための活動に取り組んだ。長野市中央通り商店街の催しにあわせて、焼きとうろしの販売を行った。

平成 27 年 8 月 12 日 お花市（歩行者天国）

② 食育プログラムの開発と実施

女性中心のサークルとして、「五感を使って旬をいただき、安心な食を大切にする心を育てる」をコンセプトとする効果的な食育プログラム（「大豆」をテーマにしたプログラム）を実践した。自分の手で調理・加工体験をしていただくことで、地産地消の考え方の普及や大人を含む食育の推進を図った。

- ・ 大豆栽培：アオダイズ 約 10a
- ・ 味噌づくり講座の実施：家庭でも実践できる味噌づくりの講座を開催し、普及に努めた
- ・ メンバー数 10名

③ 花豆加工品開発事業

（長野県地域発元気づくり支援金事業）

しあわせ信州食品開発センターを活用して、食品開発アドバイザーからの助言によりよっこらしょブランド「千稔花豆」を利用したスイーツ、煮豆の商品開発を行い、お披露目&試食会を開催した。販売検討に向けてのマーケティングができた。

- ・ ワークショップ 5回（9月、10月、11月、1月、2月）
- ・ 平成 28 年 3 月 23 日 お披露目&試食会

④ 芋井地区農家民泊の農業体験メニューへの協力

芋井地区で実施している民泊事業の一環として、修学旅行生に対する農業体験の指導等を行った。

(3) 地域振興事業

① テレビ信州「伝えよう！里山ものがたり」の協働運営

賛助団体会員のテレビ信州が取り組んでいる「伝えよう！里山ものがたり」キャンペーンの一環として、一般視聴者参加の米作り、地元芋井小学校全児童とふるさとの森づくりを行い、一般の方々の目を通した「里山」「田んぼ・畑」の姿を視聴者に伝え、「里山再生」のプロジェクトを多様な主体の参加によって推進した。

ア 親子米づくり大作戦

- ・ 田植え、草取り、稲刈り、脱穀、飯ごうすいさん、里山あそび、餅つき、しめ縄づくりなどのバリエーションに富む企画を行った。
年間8回 芋井広瀬地区 水田（10a）及び笹峯山（6ha）
- ・ 一般の方へのPRとして、「TSB秋の大収穫祭」（11月23・24日、松代城址公園）に参加した。

イ 芋井小学校との里山プログラム

（長野県緑の基金 緑の募金公募事業）

- ・ 芋井小学校全校児童に対する森林環境教育を行い、児童の描く「ゆめのもり」に沿って新しい価値を持つ森づくりを進めた。特に念願だったツリーハウスの建築を児童とともに進め、完成させた。
年間5回 「観る・遊ぶ」、「学ぶ・育てる」、「創る・食す」をテーマとする森林内での事業
- ・ 児童が描く「ふるさと・ゆめのもり」の未来の姿や取り組みの状況、児童が感じたことなどをまとめた壁新聞などを作成し、長野市内小学校、地域などに配布した。他地域への波及効果を狙って、テレビ番組を通じて広く一般の方に活動を知ってもらった。

② 飯綱高原のブランド・観光PR

飯綱高原の観光交流イベント等に焼きとうもろこしのブースを設け、イベントの盛り上げ、飯綱高原ブランドの宣伝に協力した。

平成27年 8月22日、23日 TSB24時間テレビ38
平成27年 9月 6日 飯綱高原健康マラソン

③ 飯綱高原の自然資源を活かしたイベントの開催

飯綱高原の自然を満喫できるイベントを開催することにより、訪問者相互の交流と地域資源を活かした飯綱高原ブランドづくりと発信を図った。

平成28年2月28日 スノーシューイベント
冬だからこそそとごはん〜リッチにスノーシュー 50人
（場所：長野カントリーゴルフコース）

④ 全国植樹祭活動事業

（全国植樹祭活動交付金）

第67回全国植樹祭の開催機運を高め、県全域をステージとした県民主体・県民参加による広域開催の実現を目指すため、長野市芋井地区の森林整備活動及びその木材を利用したクラフト体験を一般県民が多く集まるイベントや場所で行い、植樹祭のPR活動を効果的に実施した。

- ・ スギや雑木の間伐作業を行い、間伐した木材の端材を利用して、プランターキットの作成を行った。枝などはクラフト体験用の材料に加工した。

指導者・ボランティア 延べ約115名

- ・ 森林に親しむ入り口として、植樹、クラフト体験をイベントやスキー場に来た多くの家族・こどもたちに体験してもらい、植樹祭活動への参加を促した。
 - 平成27年5月10日 いいづな“みらいの樹”を植える会 75人
 - 平成27年9月6日 飯綱高原健康マラソン 170人
 - 平成27年10月31日 秋・飯綱高原でモリモリ・ワクワク 170人
 - 平成27年11月23、24日 食の合戦 in ながの 2015 約500人
 - 平成28年2月11日 飯綱高原スキー場 約300人

(4) 高齢者等生きがい生活支援事業

よっころしよ農場併設のカフェ&サロン「よのや」を拠点に、地域の高齢者等を対象にした「いきがづくり」、「居場所・つながりづくり」、「多世代交流」を行った。

- ・ 生きがづくり活動としての各種講座の運営
- ・ 社会貢献活動の場の提供
 - 地域の高齢者等とともに「遊休農地再生活用事業」「ヤギプロジェクト」「全国植樹祭活動事業」などの社会貢献事業を実施した。

(5) 飯綱高原ビジターセンター運営事業

ビジターセンター「オトナリハウス」を飯綱高原観光協会とともに運営、維持管理し、訪問者に対して飯綱高原の魅力を発信した。

飯綱高原観光協会との共同による維持管理
(固定資産税等の固定費負担)

(6) ボランティア等の受入

授業の一環としての長野高校グローバルハイスクール、ボランティアへの理解促進のためのサマーチャレンジボランティア、県職員のNPOとの協働に関する研修として、農場での農作業やイベント運営のボランティアの受け入れを積極的に行った。

- ・ グローバルハイスクール現地授業（長野高校）
 - 7月 10人
- ・ サマーチャレンジボランティア（長野市ボランティアセンター）
 - 7月～ 8月 7人（延べ21人）
- ・ 県民協働研修（長野県職員キャリア開発センター）
 - 8月～11月 2人（延べ10人）

(7) 新規会員の確保、既存会員とのコミュニケーション、寄付の拡大

イベントの継続的参加者、ボランティア等から法人活動全体の支援者へのステップアップを図り、継続会員へのマメな情報提供や成果報告などを通じて、共感をいただく中で会員の継続を図っていくよう務めた。

引き続き、理事を中心として、多くの関係者に対して会員募集や寄付の働きかけに力を入れていくこととなった。